TCI(Temperament and Character Inventory)の IRT(Item Response Theory)による国際比較

-日本、韓国、ブラジル間の比較-

○木島伸彦¹・室橋弘人²

(¹慶應義塾大学心理学研究室・²東京大学高齢社会総合研究機構)

キーワード: TCI, IRT, 国際比較

The cross-cultural comparison on the TCI(Temperament and Character Inventory) utilizing the IRT(Item Response Theory)

Nobuhiko KIJIMA¹, and Hiroto MUROHASHI^{2,*}

(¹Keio University, Psychological Laboratory, ²The Institute of Gerontology of The University of Tokyo)

Key Words: TCI, IRT, cross-cultural

目 的

C. R. Cloninger によって開発された TCI(Temperament and Character Inventory, Cloninger et al., 1994)は、パーソナリティを測定する尺度として、国際的に広く、心理学、精神医学の分野で用いられている。その後、行動遺伝学の新しい知見によって気質尺度の構造を見直し、かつ、Cloninger の新しい理論を基に改訂されたのが、TCI-R (Temperament and Character Inventory Revised, 1999)である。

パーソナリティ心理学の分野では、近年の脳生理科学の進展に伴い、脳の構造や遺伝子多型との関連性の研究も行われるようになってきているが、それぞれの国の言葉で作成されたバージョンの尺度が使われている。しかし、測定尺度が、そもそも測定しようとしているものが等しいものであるか(equivalent)どうかは極めて重要である。例えば、文化の違いによって、パーソナリティ尺度が本来意図しているものとは異なる概念を測定している可能性がある。一般的には、異なる言語のバージョンを作成する際には、バック・トランスレーションを行うことが通例となっているが、バック・トランスレーションの手続きを正しく行っても、異なった概念を測定してしまう可能性が残る。例えば、「naive」という英語の単語を日本語に訳すと、「素朴な」と訳されることがあるが、「naive」は英語圏ではかなりネガティブな意味合いを含むのに対して、「素朴な」は日本語としてはポジティブな意味合いを含む言葉である。このようにかなり異なる意味を含んでいても、バック・トランスレーションで同じ単語に訳されてしまえば、あたかも同じものを測定しているかのように考えられる可能性がある。

また、パーソナリティ尺度を用いた国際比較研究では、パーソナリティ尺度の測定値に有意な差があっても、その差が理論的に考えられるものとは異なることがあることが報告されている。これは、例えば、「たいていの人と比べて、わたしは○○である」というような質問文において、顕著に起こりうると考えられる。なぜなら、その「たいていの人」とは、その人が所属する準拠集団のことであり、自分自身を、その準拠集団との相対的な比較を行ってパーソナリティ尺度に回答することになる。そうすると、国際比較をしようとしても、もともと準拠集団自体が異なるので、それぞれの国の準拠集団との比較の平均をとれば、得られた結果をそのまま各国の差であるとは考えられないのである。

このように、パーソナリティ尺度を用いて国際比較を行おうとしても、様々な問題点があり、簡単には比較できないのが現状である。そこで、本研究では、IRT(Item Response Theory)を用いて、それぞれの国で得られたパーソナリティ尺度の項

目それぞれのデータに対して、特異項目機能(Differential Item Functioning; DIF)の有無を確認し、どのような項目に DIF が生じやすいのかを検証することを目的とする。

方 法

日本、韓国、ブラジルのそれぞれの国で別々に TCI-R の 240 項目版を用いて測定した。日本語版、朝鮮語版、ブラジルポルトガル語版は、それぞれの国で母国語に翻訳後、英語に再翻訳(バック・トランスレーション)し、開発者の Cloninger によって了承が得られたバージョンを用いている。

今回用いたデータは、それぞれ、年齢構成と性別を可能な限り近いデータを用いて、日本(346名)、韓国(289名)、ブラジル(505名)のデータを用いることとなった。

結 果

TCI-R のそれぞれの下位尺度の平均値を比較したところ、有意な差はみられなかった。IRT の解析の結果、多くの項目で、日本、韓国、ブラジル間で DIF のある項目が確認された。DIF がない項目の方が少なかった(結果は、膨大になるので、学会大会で詳細を報告します)。

考 察

今回、TCI-R の多くの項目で、DIF があることが確認されたが、検出された DIF にどのような意味があるのかを考えなければならぬ。言語によるものか、あるいは、文化によるものか、それも個々の項目によって、異なる背景があると考えられる。

引用文献

Cloninger, C. R., Przybeck, T. R., Svrakic, D. M., & Wetzel, R. D. (1994). *The Temperament and Character Inventory (TCI): A guide to its development and use*. St Louis, MO: Center for Psychobiology of Personality, Washington University.

Cloninger, C. R. (1999). *The Temperament and Character Inventory-Revised*. St Louis, MO: Center for Psychobiology of Personality, Washington University.